

様式 評価機構フォーマット版（結果公表用）

令和3年度 自己評価報告書の概要

令和4年5月24日

東京医療専門学校

目次

教育目標と本年度の重点目標の評価	1
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	2
基準 2 学校運営	3
基準 3 教育活動	4
基準 4 学修成果	5
基準 5 学生支援	6
基準 6 教育環境	7
基準 7 学生の募集と受入れ	8
基準 8 財務	9
基準 9 法令等の遵守	10
基準 10 社会貢献・地域貢献	11

教育目標と令和3年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和3年度重点目標	重点目標の達成状況	評価
<p><理念> 国民の保健衛生と伝統医学の発展に寄与し、広く社会に貢献する有為な人材を育成する。</p> <p><教育目的> 本校は、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師及び鍼灸マッサージの教員を養成するにあたり、それぞれに必要な高度の専門知識及び技術を授け、国民の保健衛生の増進に寄与するとともに、広く社会に貢献する有為な人材を育成する。</p> <p><育成人材像> ●鍼灸マッサージ科・鍼灸科・柔道整復科 ①医療現場において患者の心と体を癒すことのできる医療人としての人格を持った人材。 ②医療を行うに当たり必要な知識・技術と臨床力を身に付けた人材。 ③臨床現場を見据えた実践的な教育により、医療を通じて社会に貢献できる人材。</p> <p>●鍼灸マッサージ教員養成科 ①社会のニーズに対応できる高い実践的臨床能力を持った人材。 ②鍼灸マッサージ養成施設の教員として相応しい、臨床力と指導力を有した人材。</p>	<p>(1) 新型コロナ禍でも高い学生満足度を得られる教育活動</p> <p>(2) 社会に貢献する有為な治療家の育成と輩出</p> <p>(3) 高い外部評価を得られる学校運営と情報公開</p>	<p>(1) 新型コロナ感染症に対応した教育および学生支援</p> <p>①Wi-Fi環境の整備は授業環境において完了。 ②学内施設において感染を起こさないための検温、清拭など衛生環境の徹底。 ③Webを活用した遠隔授業、学習サポートのためのGoogle classroomでの情報提供。 ④対面授業を重視しつつ遠隔授業と併用するため学修計画を適時かつ柔軟に修正。 対面式授業を優先したが、オンライン授業による修得レベルの低下は否めない。 新型コロナ感染症の影響で積み残した前年度臨床実習講義の完遂。 ⑥学生の健康維持(健康診断の実施、1年次胸部X線診断の実施、ワクチン接種の促進) ⑦感染対策を徹底し、オンラインでの呉竹医学会開催</p> <p>(2) 社会に貢献する有為な治療家の育成と輩出(教育成果の質の向上と退学率の低減)</p> <p>①アウトカム基盤型教育の実践(実践的知識と臨床力) ②入学前教育の実施、面談の強化(学生とのコミュニケーション)、補習の実施 ③魅力あるアドバンス授業やゼミの充実(課外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性のためのウェルビーイング講座 ・スーパートレーナーコース ・ゼミの実施(お灸、吸い玉などの治療法、トレーナー技術等) <p>③就職率向上のためのキャリア支援強化:就職率90%以上達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人システムの利用促進と、就活促進のための企業連携 ・Webを活用したオンライン形式を含め企業説明会を3回実施 <p>(3) 高い外部評価を得られる学校運営と情報公開(魅力ある学校の発信と受験生の増加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校へのPR強化(指定校推薦校の拡大80校以上) ・学費奨学拡充(社会人奨学、推薦制度、学力特待制度) ・臨床教育、就活支援、人材発掘における企業との積極的な連携(3層連携活動) ・学生募集の全国展開(スーパートレーナーコースの活用) ・第三者評価に対応するため、ニーズを捉えた学校運営 ・官庁報告の確実な実行 ・内部統制の着実かつ適切な浸透 ・評価項目の整理とエビデンスの整備 ・職業実践専門課程、公的学費支援制度の確 ・教職員の能力向上:学会参加、医学会実施、教員研修会実施、外部講習会への積極参加 ・人事評価制度の確立 ・教員養成科学生の厚待遇での就職先拡充 	<p>3</p> <p>4</p> <p>4</p>

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、教育理念に基づき、国民の保健衛生と伝統医学の発展に寄与し、広く社会に貢献する有為な人材を育成するため、知識、技術、態度といった基本的臨床能力の修得に加え、変化する社会環境・社会構造に対する問題解決力、多様な社会ニーズ、患者ニーズに対応できる臨床力を涵養するとともに、医療従事者に必要な倫理観、使命感、ホスピタリティー等の人間力を高め、患者貢献を實踐できる、多職種連携を意識した人材育成を目指している。これらの教育理念、育成人材像、教育方針は教務規程に明記しており、学校案内パンフレットやホームページ等を利用し、広く周知を図っている。</p> <p>また、業界団体、学会、学校協会、および臨床実習の提携企業との定期的な情報交換によって業界の動向やニーズの把握に努め、それらを教育現場にフィードバックすることにより教育の質の向上を目指している。</p> <p>理念の達成に向けて、本校が設置する鍼灸マッサージ科、鍼灸科、柔道整復科、鍼灸マッサージ教員養成科はいずれも職業実践専門課程の認定を受けており、特色ある実践教育に取り組んでいる。近い将来において、教育の質の担保を図るために第三者評価の受審を計画しており、そのために必要な諸規程の整備及び内部統制の浸透に努めていくことを目標に掲げている。</p>	<p>【1-1】 理念・目的・育成人材像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 理念・目的・育成人材像は定められているか 2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか 3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか 4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか <p>○設置するすべての全学科において「職業実践専門課程」の認定（平成 26 年 3 月 31 日・文部科学省告示第 133 号）を受けている。</p>

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学園の運営は、寄付行為に基づき設置法人の理事会において運営方針を決定している。姉妹校を含む各学校の運営は、それぞれの学校の教育目標を達成するために、事業計画に基づいて学校運営を行っている。</p> <p>理事長、法人事務局長、各校の校長および事務長で構成される校長会において、学校運営の重要事項を審議・決定するほか、月次の運営報告において姉妹校と情報共有しながら学園としての教育活動を展開している。本学園は、同様の医療専門課程を設置する3つの学校で構成され、姉妹校間の交流を通して教職員の専門性や人材資源を効果的に活用しやすい組織環境となっている。</p> <p>本校の運営においては、教育活動及び学校行事に係る業務を円滑且つ適切に遂行するために、各部門の責任者で構成される科長補佐会議を定期開催し、進捗管理を行うほか、規程に基づき学校運営に必要な委員会等を組織している。</p> <p>人事・給与については、就業規則及び給与規程に明示している。呉竹学園として人材を育成し、組織の活性化を図るため、法人本部、人材育成の専門企業、各校の事務長（管理責任者）が一体となって新しい人事評価制度を開発し、令和3年度中に人事評価マニュアルを完成した。また導入に向けて人事評価研修（評価者、被評価者）を実施し、最終的な人事評価トライアルを開始した。</p> <p>意志決定システムについては、文書決裁規程に基づいて原義書により決裁過程を明らかにしている。</p> <p>情報システム化への取り組みについては、学園内にVPN（ヴァーチャル・プライベート・ネットワーク）を構築し姉妹校間のネットワーク網を整備するとともに、学生募集システム、求人検索システム、会計システム等を導入している。これらのセキュリティ対策については、ウイルス対策ソフトの導入に加え、ルーターに専用のセキュリティゲートを設置し、学内外からの攻撃を監視し、情報漏洩及び防疫の対策を施している。令和3年度においてはサーバーの老朽化に対応し、新たな管理コストを抑えつつ、教職員の使用履歴（ログ）を記録・管理可能な、新たなサーバーおよび管理システム（Sky Sea）の導入を実施した。</p>	<p>【2-2】 運営方針 1 理念等に沿った運営方針を定めているか</p> <p>【2-3】 事業計画 1 理念等を達成するための事業計画を定めているか</p> <p>【2-4】 運営組織 1 設置法人の組織運営を適切に行っているか 2 学校運営のための組織を整備しているか</p> <p>【2-5】 人事・給与制度 1 人事・給与に関する制度を整備しているか</p> <p>【2-6】 意思決定システム 1 意思決定システムを整備しているか</p> <p>【2-7】 情報システム 1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか</p> <p>○設置校 ・東京医療専門学校 ・呉竹鍼灸柔整専門学校 ・呉竹医療専門学校</p> <p>○附属施設（専門部署） ・東洋医学臨床研究所 ・呉竹学園教育センター ・呉竹学園臨床教育研究センター ・Kuretake 塾 ・教育戦略プロジェクト（PT） ・FD委員会 ・呉竹メディカルクリニック ・コンプライアンス委員会 ・研究倫理委員会 ・危機管理委員会 ・創立 100 周年記念プロジェクト</p>

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程の編成はカリキュラムポリシーに則り策定している。教育活動は、教育課程編成規則及び教育課程編成委員会実施要領に基づいて設置課程毎に教育課程編成委員会を設置し、教育課程の編成や授業科目等について委員の意見を活用しながら、業界ニーズを取り入れた教育を目指し適宜見直しを行っている。教育目標、教育方針及び育成人材像は「学修の手引き」に明記するとともに、授業計画や成績評価基準等についてはシラバスに明示している。</p> <p>キャリア教育については、ディプロマポリシーに基づいて多職種連携を意識した医療従事者としての資質を涵養することを目標に掲げ、臨床実習及び臨地実習を通して、治療現場での体験をレポートとして提出させる等、その経験が活かされるように工夫している。</p> <p>成績評価は、学則及び教務規程の定めに基づいて教務会の議を経て校長が決定している。学生のモチベーションアップを目的とした特待生奨学制度があり、令和3年度は成績優秀者の中から特待生7名、準特待生2名を選出し、所定の学費減免を行った。合格の基準に達しない場合は補習、補講、個別面談等でサポートを行っている。学力不良を理由とする退学者対策として、在校生、卒業生を活用した、学習法を学ぶ補習を試行し、成績向上に寄与した。</p> <p>国家試験の指導では、平素の学業成績をもとに、補習、補講、個別面談等を実施し、学力の底上げを図っているが、カリキュラム改定の影響など、高い合格率の維持は容易ではないため、姉妹校間で情報交換し出題傾向や試験内容等の見直しを行った。国家試験に不合格となった場合は、国家試験対策に特化した既卒者向けの Kuretake 塾（有料）を開講し、合格に向けたフォローを行っている。</p> <p>教員資格については採用時に資格証明書の確認を行い、法令で定められた教員数を確保している。教員の資質向上の取り組みについては、学生による</p> <p>授業評価アンケート及び学生満足度調査の結果等を踏まえ課題の把握に努めるとともに、組織的なFD活動、学校協会の教員研修会、学会参加、業団等が主催する研修等を通して教員の能力開発、指導力向上を図っている。</p>	<p>【3-8】 目標の設定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか <p>【3-9】 教育方法・評価等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか 2 教育課程について外部の意見を反映しているか 3 キャリア教育を実施しているか 4 授業評価を実施しているか <p>【3-10】 成績評価・単位認定等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか 2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか <p>【3-11】 資格・免許の取得の指導体制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 2 資格・免許取得の指導体制はあるか <p>【3-12】 教員・教員組織</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 資格・要件を備えた教員を確保しているか 2 教員の資質向上への取組を行っているか 3 教員の組織体制を整備しているか

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職に関しては、就職希望者の就職率 100%を目標に、学生の就職活動を支援するため、キャリアガイダンスや企業説明会等を開催している。鍼灸院や接骨院等、関連分野の求人数は、学生数に対して多くの求人があり、就職は学生に有利な売り手市場となっている。令和3年度の進路調査では就職率は98%（就職希望者の就職率）となったが、国家試験の勉強を優先して就職活動を後回しにする学生や、自分が目指す治療スタイルや勉強したい治療分野とのずれに悩んでいる学生も一定数いることから、3月の卒業式以降も学生個々の事情に応じた就職のマッチングを支援している。</p> <p>資格取得については、国家試験合格率 100%を目標として、平素の授業、試験、補習等により国家試験対策をし、例年全国平均を上回る合格実績を残しているが、令和3年度 of 国家試験結果は、あん摩マッサージ指圧師が98.3%（全国新卒97.4%）、はり師が91.5%（全国新卒90.4%）、きゅう師が90.4%（全国新卒91.4%）、柔道整復師が75.5%（全国81.0%）と、一部は全国平均を下回る結果となった。学生の学力低下（弱年齢化）や新型コロナウイルスの影響もあり、高い合格率の維持は容易ではないため、姉妹校と協力して国家試験対策や指導方法を改善する必要がある。</p> <p>卒業生の社会的評価については、学会等での学術発表や学術雑誌への掲載、校友会組織である呉竹会、求人企業や臨床実習指導先企業との情報交換、学校広報誌の取材等を通して部分的ではあるが把握に努め、学校案内やホームページで紹介して募集活動に活用している。</p>	<p>【4-13】 就職率</p> <p>1 就職率の向上が図られているか</p> <p>【4-14】 資格・免許の取得率</p> <p>1 資格・免許取得率の向上が図られているか</p> <p>【4-15】 卒業生の社会的評価</p> <p>1 卒業生の社会的評価を把握しているか</p>

基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職支援は事務局、臨床教育研究センター、3年生の担任が連携し、進路調査、キャリアガイダンス、企業説明会の開催、求人案内等を行っている。令和3年度の企業説明会について3回（6月、10月、3月）実施し、10月は新型コロナの影響でオンライン形式となった。</p> <p>中途退学については、成績不良に伴う学習意欲の低下が出席不良にも繋がることから、少しでも早期に退学の兆候を察知するため、担任は毎週の会議で学生の欠席状況等を報告するとともに、試験の成績を基に補習や個別相談、保護者への連絡を行い、退学の防止に努めている。退学率は5.0%以内を目標としているが、令和3年度の中退率は全学科で6%であった。特に柔道整復科I部の退学率は10%を超え、退学の多くが1年次に発生しているため、学修面の支援に加え、目標を見失ったり、学校生活で孤立したりしないよう、クラス内での、目標の共有や対話を促すため、学び方補習や課外活動への参加を促した。また、次年度に向けて企業による退職者対策を参考にした導入教育（マインドセット）を検討した。</p> <p>学生相談は、各学年に担任・副担任をおき、複数の教員が相談に応じられる体制としている。給付金や奨学金等の経済的支援、就職、ハラスメント等に関する相談は、学生支援室および事務局が窓口となっている。心理的な相談への対応や第三者性の確保の観点から心理カウンセラーの設置を検討した。経済的支援では、独自の奨学制度、特待生制度、資格別授業料減免の他、専門実践教育訓練給付や、修学支援制度（高等教育無償化）の対象校となっている。</p> <p>健康管理では、法令に基づき、健康診断（全学年）、胸部X線検診（1年生のみ）を実施した。新型コロナ感染症対策としては、日々の健康観察、検温、教室内什器の清拭等、衛生環境の維持を徹底した。また、コロナ感染者および濃厚接触者に対してオンライン授業を配信する等、自宅待機中の学習支援も行った。また教職員と学生を対象に、新型コロナワクチン接種の支援（職域接種の活用等）を行った。</p> <p>また、地方の学生には、食事を提供する提携学生寮や賃貸物件を専門業者との提携価格で案内している。</p> <p>課外活動は、令和3年度については、お灸同好会、中医ゼミ、良導絡ゼミ、精神疾患と認知症ゼミ、小児鍼ゼミ、鍼鍼等ゼミ、トレーナーゼミ（柔整科）を実施した。また有料講座としては、スーパートレーナーコース、女性のためのウェルビーイング（美容）講座を実施した。</p> <p>保護者との連携では、成績不良や欠席の多い学生に対しては保護者と連絡をとり、必要に応じて三者面談を実施している。令和3年度は、新型コロナの影響もあり保護者会を実施しなかった。</p> <p>卒業生に対しては、卒後の技術研鑽を支援するため、外部講師による卒後臨床講習会や、呉竹会講演会等を計画したが令和3年度は中止した。10月の呉竹医学会は、年度の当初からオンライン形式での実施を計画し実施した。社会人の受入体制としては、働きながら通学できる鍼灸科夜間特修コースを設けているが、柔道整復科夜間特修コースは、学生の減少に歯止めがかからず、令和4年度生の募集を停止した。</p>	<p>【5-16】 就職等進路</p> <p>1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか</p> <p>【5-17】 中途退学への対応</p> <p>1 退学率の低減が図られているか</p> <p>【5-18】 学生相談</p> <p>1 学生相談に関する体制を整備しているか</p> <p>2 留学生に対する相談体制を整備しているか</p> <p>【5-19】 学生生活</p> <p>1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか</p> <p>2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか</p> <p>3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか</p> <p>4 課外活動に対する支援体制を整備しているか</p> <p>【5-20】 保護者との連携</p> <p>1 保護者との連携体制を構築しているか</p> <p>【5-21】 卒業生・社会人</p> <p>1 卒業生への支援体制を整備しているか</p> <p>2 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか</p> <p>3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか</p>

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の施設・設備は関係法令の基準に適合し、且つ教育上の必要性に対応した施設になっている。保守については、法定点検及び定期点検の結果に基づいて計画的に改修および設備更新を行うとともに、教育の Web 化、デジタル化に対応して通信機材と Wi-Fi 環境の整備を進めた。四谷エリアは竣工から 40 年を経過しているため、令和 6 年（2024 年）の完成を目指して最新設備を備えた改築を進めている（平成 31 年 4 月 新 5 号館竣工、令和 2 年 4 月 新 1 号館竣工）。</p> <p>学外実習については、対象施設を毎年増やし臨地実習の機会を拡充させている（約 140 カ所）。また海外研修については、希望者を対象に上海中医薬大学への短期留学（鍼灸コース、薬膳コース、解剖実習コース）を毎年実施していたが、令和 2 年度は中止し、令和 3 年度は上海と東京間をリアルタイムで結ぶ、オンライン形式に挑戦し、159 名の参加者で大盛況となった。</p> <p>防災に関しては、消防計画及び危機管理マニュアルに基づき、災害時の体制を組織し、防災訓練を毎年実施している。また災害備蓄品は学生には個人用を保管させ、教職員用には別に備蓄している。令和 3 年度は三密を避けるため、放送訓練（学生）と模擬訓練（教員）に分けて実施した。</p> <p>学内の安全管理体制では、学校安全計画に基づいて毎学期、校舎施設、設備、教育備品等の点検を実施し、不具合等の確認及び修繕を行っている。</p> <p>学生の保険としては、学生生徒災害傷害保険及び医療分野学生生徒賠償責任保険に加入していたものを、令和 2 年度から 24 時間共済保険に切り替え、臨床実習を含めた普段の事故や感染症に対する補償を充実させた。</p>	<p>【6-22】施設・設備等</p> <p>1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか</p> <p>【6-23】学外実習・インターンシップ等</p> <p>1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか</p> <p>【6-24】防災・安全管理</p> <p>1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか</p> <p>2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか</p>

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集活動における高等学校への情報提供は、学校案内や学生募集要項等の配布に加え、進路ガイダンスや高校訪問の際に、進路指導や担任の先生に在校生状況や入試に関する最新情報を提供している。入試の時期や方法については、東京都専修学校各種学校協会の入試倫理規程を遵守して適切に実施している。</p> <p>学生募集活動を効果的に実施するために、ホームページ、SNS、YouTube（動画）、進学サイト、チラシ等の様々な広報ツールを活用し、学校情報を分かりやすく発信する工夫をしている。学校説明会でのプレゼンテーションでは、学校の魅力を十分に伝えられているか、事務局と担当教員で話し合い、イベント内容に合わせて見直している。学生募集情報管理システムを活用し、資料請求者、イベント参加者、受験者等に関する情報の一元化と共有を進め、募集活動の効率化を図っている。少しでも優秀な学生を獲得するため指定校推薦の対象校を約 80 校に増やした。元 FC バルセロナトレーナーの山田晃広氏（スポーツトレーナーコース主催）に、全国の高校生アスリートに対して、セミナー、SNS、YouTube 等で、本校におけるトレーナー教育（課外授業）をPRして貰い、全国からの学生募集に成果を出した。新型コロナ禍において、全国の遠隔地の方の受験を容易にするため、文科省の指針・指導を踏まえて、オンライン入試を実施した。</p> <p>入学選考においては、入試委員会規程において選考基準を定めており、入試の判定については入試委員会の議を経て校長がこれを決定し、その結果を議事録に保存している。入試に関するデータ及び募集状況については、校長会にて月次報告し、募集施策や入試方法の見直しを図っている。</p> <p>令和 3 年から新たに入学特待生奨学制度を始め、学力試験（現代文）により 16 名の特待生対象者を選考し、後期授業料において奨学する事とした。</p> <p>学納金は、同分野の学校の学費水準をベンチマークし、経費の妥当性に基づいて令和 2 年 4 月から導入した新学費体系と、募集力向上のため令和 3 年度から導入した新奨学制度（推薦、特待、保有資格等）を適用している。</p> <p>入学辞退者に対する授業料等の返戻は、学則及び募集要項に明記している。</p>	<p>【7-25】 学生募集活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか 2 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか <p>【7-26】 入学選考</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか <p>【7-27】 学納金</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか 2 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の財務基盤は、少額のリース契約を除いて借入金は無く、繰越利益金はプラスで推移している。人件費等の固定費比率についても適正な範囲に収まっているため、中長期的に安定した財務基盤となっている。一方で、養成施設の過剰供給に加え、少子化や修学支援制度による大学等への進学希望者の増加、社会人の入学志願者の減少などにより、学納金収入が減少傾向にあり、今後の持続的な定員確保を課題としている。</p> <p>予算・収支計画については、教育目標や事業計画に基づいて理事会で決定し、執行管理についてはクラウド会計システムにより法人事務局にて管理している。</p> <p>監査は法令に基づき每期実施し、理事会において監査報告を行うとともに、毎年度、監査法人によるチェックと指導を受けている。</p> <p>財務情報の公開については、情報公開規程に基づき、財務諸表をホームページに公開している</p>	<p>【8-28】 財務基盤</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか <p>【8-29】 予算・収支計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 2 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか <p>【8-30】 監査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか <p>【8-31】 財務情報の公開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、関係法令及び設置基準等に基づいて、監督官庁等への報告、申請、届出等を行うとともに、学校運営に必要な諸規程を整備し、適正な学校運営に努めている。令和元年に全教職員を対象としてハラスメント教育を実施した。今後、ハラスメント防止規定に従い、相談窓口設置を検討する。コンプライアンスの遵守では、自己点検の実施と合わせて、法人において弁護士、監査法人と契約を締結して必要な対応を取っている。</p> <p>個人情報保護に関しては、個人情報保護規程に基づき、情報漏洩防止の観点からデータの取り扱い等のルールを策定し運用するとともに、ホームページにプライバシーポリシーを公開している。昨今、本校および姉妹校においてメールによる参加者情報の誤送信が発生しており、この事例を教職員会で共有するとともに、メール送信時の確認画面を全ての PC にインストールするなど、個人情報管理の一層の強化、再発防止に努めている。</p> <p>学校評価における取り組みでは、平成 21 年から自己点検・自己評価を実施し、その結果をホームページに公表するとともに、平成 24 年から関連業団体の有識者、企業等の役職者等の学校関係者による学校評価を行い、その結果をホームページに公表している。</p> <p>教育情報の公開に関しては、文部科学省の「専門学校における情報提供等の取組に関するガイドライン」に沿って、ホームページや学校案内パンフレット等で公表している。また、令和元年度から修学支援に関する法律の機関要件確認申請に伴い、成績評価における GPA（グレード・ポイント・アベレージ）や実務経験のある教員の授業科目、役員名簿、財務情報など、教育活動と学校運営に関する詳細情報を公表した。</p>	<p>【9-32】 関係法令、設置基準等の遵守</p> <p>1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか</p> <p>【9-33】 個人情報保護</p> <p>1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか</p> <p>【9-34】 学校評価</p> <p>1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか 2 自己評価結果を公表しているか 3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか 4 学校関係者評価結果を公表しているか</p> <p>【9-35】 教育情報の公開</p> <p>1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか</p>

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の教育資源を活用した社会貢献では、教員が（公社）全日本鍼灸学会の編集委員・学術委員・教育研修委員として、また（公社）東洋療法学校協会の各種委員としての活動を通して、鍼灸の学術・教育の発展に寄与している。地域貢献では、地域住民の方の健康の維持増進に資するため、本校の鍼灸科附属施術所では年間延べ 1,000 人以上の患者を受け入れている。学園祭では、チャリティー鍼灸やチャリティーマッサージの施術イベントを開催し、伝統医療の普及啓発に取り組むとともに、学園祭の収益の一部を地域社会に寄付してきた（令和元年には、四谷の日本視覚障害者職能開発センター）。しかし、令和 2 年度および 3 年度は新型コロナの影響で学園祭を中止したため、この寄付は行わなかった。</p> <p>一方、日本赤十字に対する寄付は継続的に 10 年以上に渡って行っている。</p> <p>学校の施設は、関係協会や団体等から要請があった場合には、講習会等の会場として校舎施設を開放している。</p> <p>国際交流では、学術交流及び医学知識・技術の研鑽を目的に上海中医薬大学短期留学を毎年度実施している。令和 2 年度および 3 年度は新型コロナの影響で渡航（対面式）は実現しなかったが、リアルタイムのオンライン形式での講義を、試験的に安価であるが有料で実施したところ盛況となった。</p> <p>ボランティア活動としては、神奈川県体育協会主催の陸上競技や東京オリンピックにおけるボランティア活動に学生や教員が参加した。</p>	<p>【10-36】社会貢献・地域貢献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2 国際交流に取り組んでいるか <p>【10-37】ボランティア活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っている

以上